

日本海側の海域活断層 (令和6年7月速報暫定版) の評価・公表方針

令和6年5月20日（月）

第28回海域活断層評価手法等検討分科会

※次頁以降の日本海南東部（仮称）の記載は、以前の標記であり、公表時は日本海側の海域活断層（令和6年7月速報暫定版）という名称になります。

日本海南東部（仮称）の海域活断層の評価・公表方針 修正案

令和6年2月2日（金）

第25回海域活断層評価手法等検討分科会資料において追加記載

第27回海域活断層評価手法等検討分科会資料において再追加記載（赤字）

1. 当初予定していた審議工程

- 当初の予定では、日本海南西部と同様に、対象海域全ての断層の審議を終えた後、評価文を作成し、令和6年度中に公表を行う予定であった。
- 具体的には、以下の工程を踏む予定であった。
 1. 個別断層のトレースの認定（評価単位区間の設定を含む）、命名、断層の種類（信頼度は後で）、傾斜（信頼度は後で）
 2. 個別断層の垂直変位量の読み取り
 3. 対象とする範囲、区域分け
 4. 個別断層の平均変位速度の算出、地震発生層の下限の深さの推定
 5. 発生確率の計算
 6. 評価文の作成

※各工程の審議中に、以前の工程の成果を修正する場合あり

2. 状況の変化

- ・令和6年1月1日、「令和6年能登半島地震」が発生。能登地方等で甚大な被害。
- ・この地震について、1月15日に開催した地震調査委員会では、以下のように評価されている。

- 能登半島西方沖から北方沖、北東沖にかけては、主として北東－南西方向に延びる複数の南東傾斜の逆断層が活断層として確認されている。この活断層が今回の地震に関連した可能性が高い。
- また、更に北東の佐渡島西方沖にかけては、主として北西傾斜の逆断層が活断層として確認されており、この活断層の一部が今回の地震に関連した可能性も考えられる。
- これまでの地震活動及び地殻変動の状況を踏まえると、2020年12月以降の一連の地震活動は当分続くと考えられる。特に今回の活動域及びその周辺では、今後強い揺れや津波を伴う地震発生の可能性がある。



- ①当該活断層は、日本海南東部（仮称）での評価を想定していた領域に存在する活断層であること
- ②今回の活動域やその周辺では、今後強い揺れや津波を伴う地震発生の可能性があるとして評価されていること

を踏まえると、**被災地やその周辺地域の防災計画検討等の支援のため、本分科会での評価の成果を迅速に公表することが求められる。**

3. 評価・公表の方針（案）

① 当面のスケジュール

- ・ 2月～5月に分科会で審議
- ・ 5月～7月頃に、公表項目について、長期評価部会及び地震調査委員会での審議・承認
- ・ 7月頃に公表

② 7月頃に最低限公表する必要がある項目

- ・ **これまでに審議した活断層、
令和6年能登半島地震に関連した可能性がある活断層、
その周辺の活断層の**
 - ・ **トレース**（端点の位置の経緯度、位置の信頼度、走向、長さを含む）
 - ・ **地震の規模**（松田(1975)のM-L式等により求める）
 - ・ **名称**

※トレースを地図に表す際には、審議した範囲がどこなのかを明示する。

③ 7月頃に可能なら公表する項目

- ・ 上記活断層の
 - ・ **断層の種類・信頼度**
 - ・ **1回のずれ量**（松田ほか(1980)の経験式等により求める）
 - ・ **傾斜・信頼度**
 - ・ **断層面の幅**

④ その後の公表の内容及びスケジュール

- ・ 範囲をどこにするか、
審議が終わった項目から順次公表するか、評価文をまとめて一括に公表するか
は今後検討

7月ごろに 公表する項目（案） 1 / 3（長い断層）

最低限公表する項目
可能なら公表する項目

●位置と発生確率（日本海南西部の海域活断層の長期評価（第一版） p.8より）

地域細分	活断層のくくり (付録2)	評価単位 区間(付録2)	端点1				端点2				30年以内M $\geq$ 7の 地震発生確率 ^{注2)}	
				北緯	東経	信頼度		北緯	東経	信頼度	95%信頼区間 (中央値)	
東部	伯耆冲断層帯	東部区間	東端	35° 45'	134° 25'	○	南西端	35° 45'	134° 08'	○	3 - 7 (5)	評価領域 全体 8-13 (11)
		中部区間	北東端	35° 44'	134° 07'	○	南西端	35° 39'	133° 40'	○		
		西部区間	東端	35° 39'	133° 40'	○	西端	35° 34'	133° 24'	○		

●特性表（同 p.9より）

地域細分	活断層のくくり (付録2)	評価単位 区間(付録2)	断層長 (km)	信頼 度	各区分単独活 動の場合の地 震規模(M)	ずれの 断層の 走向 ^{注6)}	向きと種類		断層面の 傾斜方向	信頼 度	断層面 の幅 ^{注7)}	基準面の垂 直変位量 ^{注8)} (sec)	信頼 度	1回の ずれ量 ^{注9)}
							種類	信頼 度						
東部	伯耆冲断層帯	東部	26	○	7.2程度	N90° W	右横ずれ	○	北傾斜高角	△	17km程度	0.03	△	3m程度
		中部	42	○	7.5程度	N103° W	右横ずれ	○	北傾斜高角	○	17km程度	0.03	△	4m程度
		西部	26	○	7.2程度	N111° W	右横ずれ	○	北傾斜高角	○	17km程度	不明	—	3m程度
		全体	94	○	7.7-8.1程度									

上記のほか、

最低限公表する項目 : トレースを表示した地図、審議した範囲
可能なら公表する項目 : 断層面の下端の深さ

7月ごろに 公表する項目（案） 2／3（長い断層）

●平均変位速度、平均活動間隔（日本海南西部の海域活断層の長期評価（第一版） p.56より）

ここで示す平均変位速度は、全ての評価対象の海域活断層帯で同じ断層すべり角の横ずれ／縦ずれ比の幅を用いて推定しており（詳細は3.（1）―6を参照）、個別の断層に特化した評価になっていないことから、評価単位区間によっては本来の値から外れた値になる可能性もある。注4）及び注5）については主文を参照のこと。

地域 細分	活断層のくくり (付録2)	評価単位 区間(断層番号)	地震の規模 (M)	平均変位速度 推定値[根拠] (m/千年) ^{※1}	活動度	信頼度	平均活動間隔 (千年) ^{※2}	信頼度
	伯耆沖 断層帯	東部区間（1－1）	7.2程度	0.07-0.7 [縦横比]	B-C	△	4 - 40	△
		中部区間（1－2）	7.5程度	0.07-0.7 [縦横比]	B-C	△	6 - 60	△
		西部区間（1－3）	7.2程度	0.07-0.7 [1－2]	B-C	—	4 - 40	—

●地震発生確率（参考）（同p.57より）

地震の規模は公表する

注4）及び注5）については主文を、注15）については説明文を参照のこと。また、薄い影を付した断層（評価対象区間）は垂直変位量が読み取れず、近隣の断層帯から平均変位速度を仮定して確率を算出している。

地域 細分	活断層のくくり (付録2)	評価単位区間 (付録2)	地震の 規模 (M)	今後30年以内における固有規模の地 震発生確率 ^{注15)} (%)	30年以内における痕跡を 認めにくい地震の発生確率 ^{注15)} (%)		
				95%信頼区間 (中央値)	計算方法	95%信頼区間 (中央値)	計算方法
	伯耆沖断層帯	東部区間	7.2程度	0.08-0.6 (0.1)	ポアソン	0.04-0.3 (0.06)	ポアソン
		中部区間	7.5程度	0.05-0.4 (0.09)	ポアソン	0.02-0.2 (0.04)	ポアソン
		西部区間	7.2程度	0.08-0.6 (0.1)	ポアソン	0.04-0.3 (0.06)	ポアソン

7月ごろに 公表する項目（案） 3 / 3（短い断層）

最低限公表する項目

- 海域の短い活断層（位置と長さのみ）
（日本海南西部の海域活断層の長期評価（第一版） p.54より）

	長さ20 km未満の活断層	端点1			端点2			長さ (km)	図中の 記号 ^{※2}
			北緯	東経		北緯	東経		
東 部	島前南東沖断層	東端	35° 51'	132° 43'	西端	35° 49'	132° 35'	12	a
	江津沖南断層	東端	35° 11'	132° 10'	西端	35° 10'	132° 02'	13	b

上記のほか、
最低限公表する項目 : トレースを表示した地図、審議した範囲

7月ごろに 公表する特性表（案） 1 / 3

●評価した海域活断層の位置

網掛けは、現時点で未評価の項目

図中の番号	活断層のくくり	評価単位 区間	端点1				端点2				30年以内M $\geq$ 7の発生確率
				北緯	東経	信頼度		北緯	東経	信頼度	95%信頼区間(中央値)
1	沖ノ礁北方断層		北	36°06'	135°04'	○	南	35°53'	135°09'	○	
2	経ヶ岬沖断層		南西	35°47'	135°09'	○	北東	36°00'	135°26'	○	
3	小浜沖断層		北西	35°48'	135°27'	○	南東	35°33'	135°40'	△	
4	浦島礁北方北断層		北	36°30'	135°10'	○	南	36°11'	135°20'	○	
5	若狭海丘列北縁断層		南西	36°33'	134°48'	△	北東	36°37'	135°01'	△	
6	越前岬西方沖北断層		西	35°55'	135°31'	○	東	36°06'	135°53'	○	
7	浦島礁北東断層		北北西	36°11'	135°25'	○	南	36°01'	135°33'	○	
8-1	ゲンタツ瀬・大グリ南東縁断層帯	ゲンタツ瀬	南西	36°10'	135°41'	○	北東	36°18'	135°51'	○	
8-2		大グリ	南西	36°14'	135°52'	○	北東	36°29'	136°08'	○	
9	加佐ノ岬沖断層		南西	36°30'	136°01'	○	北東	36°40'	136°12'	○	
10	羽咋沖東断層		南	36°48'	136°34'	○	北	37°04'	136°32'	○	
11	羽咋沖西断層		南	36°52'	136°27'	○	北	37°04'	136°29'	○	
12	内灘沖断層		南西	36°44'	136°02'	○	北東	36°58'	136°12'	○	
13	海士岬沖東断層		南西	37°05'	136°30'	○	北東	37°14'	136°38'	○	

7月ごろに 公表する特性表（案） 2 / 3

網掛けは、現時点で未評価の項目

図中の番号	活断層のくくり	評価単位 区間	断層長 (km)	信頼度	各区分単 独活動の 場合の地 震規模(M)	ずれの向きと種類			断層面の 傾斜方向	信頼度	発生 層下 限	断層面の幅	基準 面の垂 直変位 量 (sec)	信頼度	1回の ずれ量
						断層の 走向	種類	信頼度							
1	沖ノ礁北方断層		25	○	7.2程度	N163°E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15	15km程度			約3m程度
2	経ヶ岬沖断層		36	○	7.4程度	N46°E	北西側隆起の逆断層 (右横ずれ成分を伴う)	○	北西傾斜高角	○	15	17km程度			約4m程度
3	小浜沖断層		33	△	7.4程度	N144°E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15	15km程度			約3m程度
4	浦島礁北方北断層		40	○	7.5程度	N157°E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15	15km程度			約4m程度
5	若狭海丘列北縁断層		21	△	7.0程度	N71°E	南側隆起の逆断層	△	南傾斜低角	○	18	36km程度			約2m程度
6	越前岬西方沖北断層		38	○	7.5程度	N60°E	北西側隆起の逆断層 (右横ずれ成分を伴う)	○	北傾斜高角	○	15	17km程度			約4m程度
7	浦島礁北東断層		23	○	7.1程度	N147°E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15	15km程度			約2m程度
8-1	ゲンタツ 瀬・大グリ 南東縁断層 帯	ゲンタツ瀬	20	○	7.0程度	N47°E	北西側隆起の逆断層	○	北西傾斜高角	○	15	17km程度			約2m程度
8-2		大グリ	35	○	7.4程度	N41°E	北西側隆起の逆断層	○	北西傾斜高角	○	15	17km程度			約4m程度
8			52		7.7程度	N49°E									
9	加佐ノ岬沖断層		25	○	7.2程度	N40°E	南東側隆起の逆断層	○	南東傾斜高角	○	15	17km程度			約3m程度
10	羽咋沖東断層		30	○	7.3程度	N4°W	西側隆起の逆断層	○	西傾斜高角	○	15	17km程度			約3m程度
11	羽咋沖西断層		21	○	7.0程度	N9°E	西側隆起の逆断層	○	西傾斜高角	○	15	17km程度			約2m程度
12	内灘沖断層		29	○	7.3程度	N29°E	南東側隆起の逆断層	○	南東傾斜高角	○	15	17km程度			約3m程度
13	海士岬沖東断層		21	○	7.0程度	N36°E	南東側隆起の逆断層	○	南東傾斜高角	○	15	17km程度			約2m程度

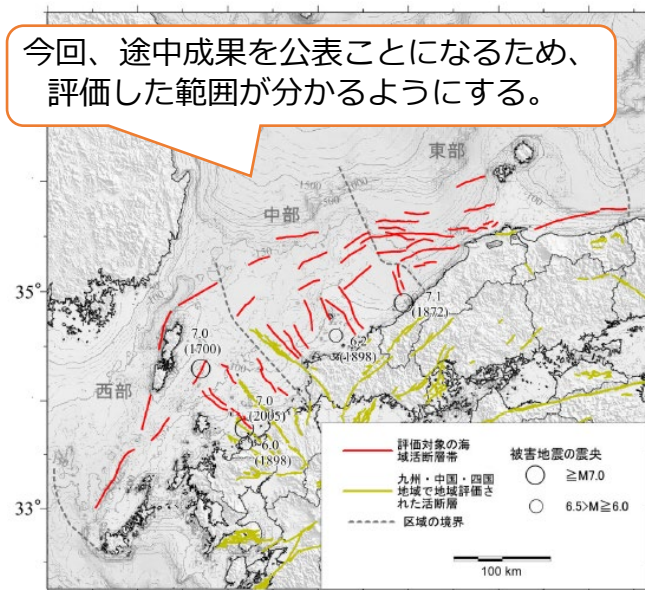
7月ごろに 公表する特性表（案） 3 / 3

●海域の短い活断層（位置と長さのみ）

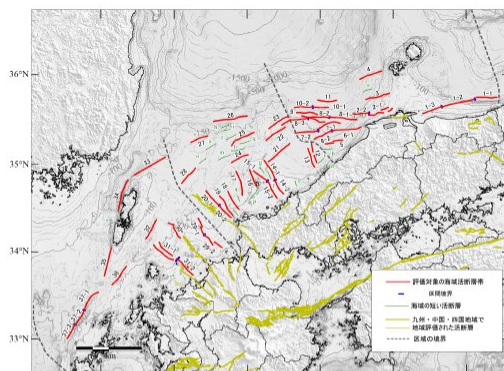
図中の 記号	長さ20 km未満の 活断層	端点1			端点2			長さ (km)
			北緯	東経		北緯	東経	
a	伊笹岬沖断層	西	35°53'	134°28'	東	35°52'	134°32'	6
b	香住沖断層	南西	35°50'	134°38'	北東	35°53'	134°43'	9
c	万十北断層帯	南西	35°59'	134°52'	北東	36°04'	135°02'	18
d	浦島礁南方断層	北西	35°55'	135°26'	南東	35°47'	135°32'	17
e	浦島礁北方南断層	北	36°08'	135°16'	南	36°01'	135°20'	15
f	浦島礁北方東断層	西	36°24'	135°16'	東	36°24'	135°25'	13
g	美浜湾断層	北	35°51'	135°53'	南	35°41'	135°56'	19
h	越前岬西方沖南断層	西	35°53'	135°35'	東	35°56'	135°47'	19
i	越前岬西方沖中断層	西	35°56'	135°35'	東	35°58'	135°46'	17
j	ゲンタツ瀬南方断層	北	36°14'	135°52'	南	36°07'	135°54'	13
k	ゲンタツ瀬南東断層	北	36°10'	135°43'	南	36°05'	135°45'	11
l	前ノ瀬南方断層	南西	36°57'	136°14'	北東	37°04'	136°21'	17
m	沖ノ瀬断層	南	37°07'	136°20'	北東	37°15'	136°24'	16

7月ごろに公表する図のイメージ（下記は日本海南西部の画像を使用）

今回、途中成果を公表ことになるため、
評価した範囲が分かるようにする。

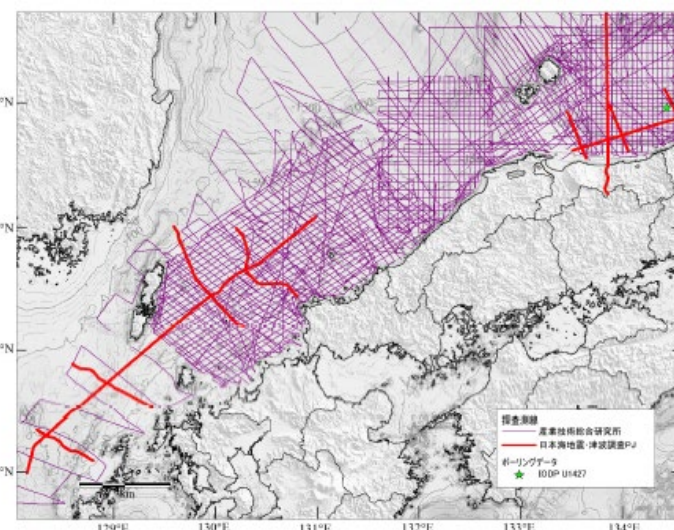


評価した断層のトレース

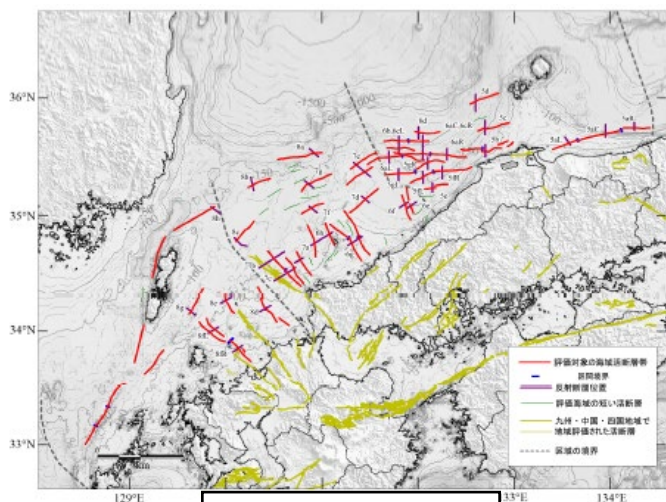


(東部)	(中部)	(西部)
1-1 伯耆沖断層帯 (東部区間)	12 瀬田沖断層	29-1 白鳥沖断層帯 (北部区間)
1-2 伯耆沖断層帯 (中部区間)	13 三隅沖断層	29-2 白鳥沖断層帯 (南部区間)
1-3 伯耆沖断層帯 (西部区間)	14-1 須佐沖断層帯 (北部区間)	30 沖ノ島近海断層
2-1 島根半島北方沖断層帯 (東部区間)	14-2 須佐沖断層帯 (南部区間)	31-1 小島島近海断層帯 (北西沖区間)
2-2 島根半島北方沖断層帯 (西部区間)	15-1 毛土川沖断層帯 (北部区間)	31-2 小島島近海断層帯 (東方沖区間)
3 土佐沖断層	15-2 毛土川沖断層帯 (南部区間)	32 対馬東大連断層
4 島根西方断層	16 島根近海断層	33 対馬北方断層
5 江津沖断層	17 即神ノ瀬東方断層	34 対馬上東方断層
6-1 日御碕沖断層帯 (東部区間)	18 向津良沖断層	35 対馬南方断層
6-2 日御碕沖断層帯 (西部区間)	19 島島沖断層	36 七瀬ヶ原断層
7-1 根尾グリ北方断層帯 (東部区間)	20-1 角島沖断層帯 (北部区間)	37-1 第1五島地断層帯 (北部区間)
7-2 根尾グリ北方断層帯 (西部区間)	20-2 角島沖断層帯 (南部区間)	37-2 第1五島地断層帯 (中部区間)
8-1 十六島島西方断層帯 (東部区間)	21 慈恵沖断層	37-3 第1五島地断層帯 (南部区間)
8-2 十六島島西方断層帯 (中部区間)	22 千里ヶ瀬東方断層	
8-3 十六島島西方断層帯 (西部区間)	23 千里ヶ瀬東方断層	
9 石見沖断層	24 タツモ子東方断層	
10-1 石見沖断層帯 (東部区間)	25 ウマモ子西方断層	
10-2 石見沖断層帯 (中部区間)		
11 石見沖断層帯 (西部区間)		

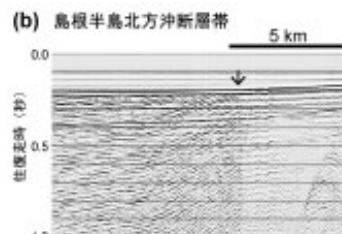
断層のトレースと名称



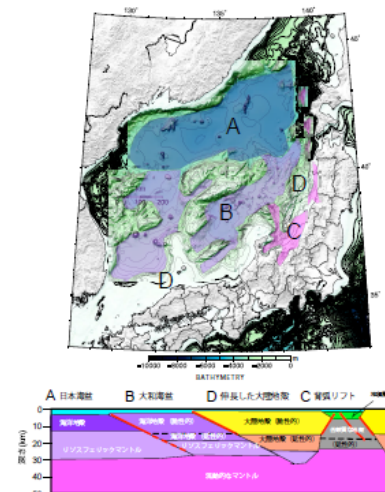
測線図の位置



断面図の位置



断面図（複数掲載）



地震発生層の下限深さ